

## 【漁況】 [マアジ]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマアジの漁獲量は、1965年の53万トン进行ピークに減少傾向となり、1980年には5万4千トンとなりました。

その後増加傾向に転じ、1996年には33万トンに増加し、1998年までは30万トン台で推移しましたが、その後再び減少傾向に転じ、2024年は9.2万トンとなりました。

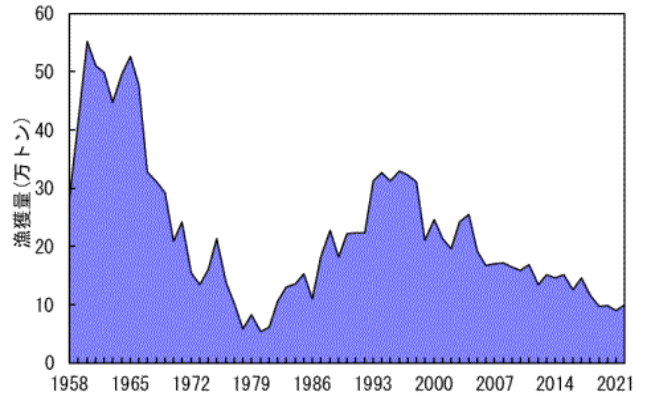


図 全国のマアジ漁獲量の推移

### 2. 県内の2026年1~3月期の漁況の経過

#### 【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域では、2月に甑東、串木野沖で豆銘柄（1歳魚：2025年生まれ）、3月に甑東、縄瀬で豆銘柄、串木野沖で小銘柄（1~2歳魚：2024~2025年生まれ）主体の漁場が形成されました。

薩南海域では、1月に志布志沖で豆銘柄（1歳魚：2025年生まれ）、2月に野間池、角瀬、立目沖で豆銘柄、3月に角曾根、立目崎沖で豆銘柄主体の漁場が形成されました。

4港計のまき網では1,533トンの水揚げで、前年比133%、平年比108%でした。

### 3. 県内の2026年4~6月期の見とおし

漁獲主体：小銘柄以下（1歳魚：2025年生まれ）

来遊量：前年を下回り、平年並

（根拠）

漁獲主体は近年の漁獲動向から予測しました。また、来遊量は、直近の漁模様と正の関係があることから、前年を下回り、平年並になるものと考えられます。

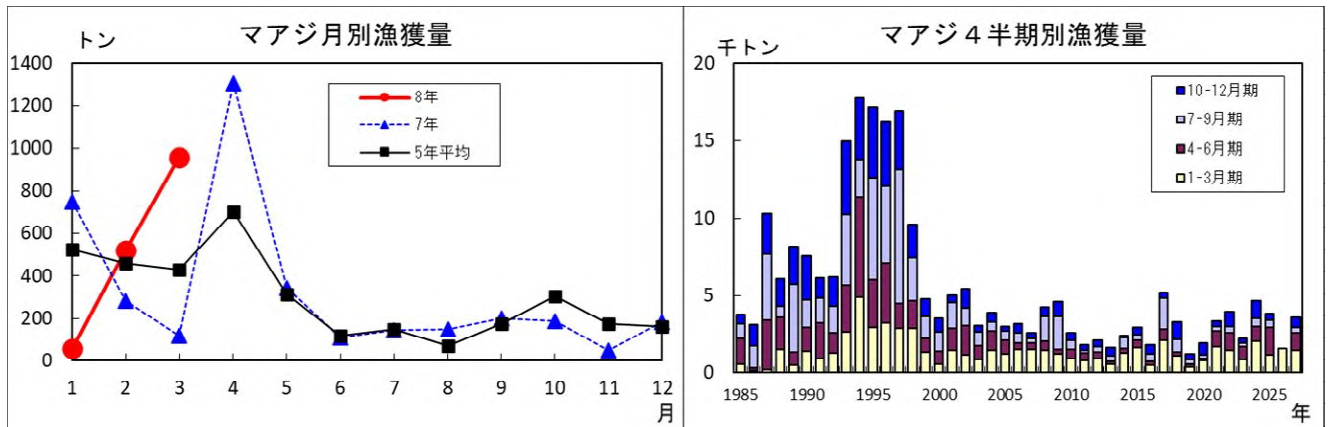


図 マアジまき網漁獲量変化(4港計)

※平年値は過去5年の平均値(AV)、2026年3月24日までの水揚げ量を使用  
(以下同じ)

## [サバ類]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のサバ類の漁獲量は、1978年の160万トン进行ピークに年々減少し、1991年には26万トンとなりました。

1993年から増加に転じ1997年には85万トンとなりましたが、2002年には28万トンまで減少しました。

2006年に65万トンまで増加したあと減少傾向となり、2024年は26万トンとなりました。

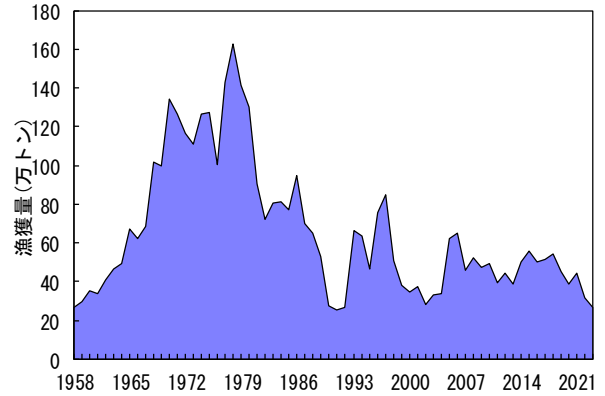


図 全国のサバ類漁獲量の推移

年

### 2. 県内の2026年1～3月期の漁況の経過

#### 【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域では、2月に甑東で豆銘柄（0～1歳魚：2024～2025年）、五島下で小銘柄（1～2歳魚：2023～2024年）、3月に甑東、五島下で大銘柄（3歳魚以上：2023年以前）、豆銘柄（0～1歳魚：2024～2025年）、縄瀬で小銘柄（1～2歳魚：2023～2024年）主体の漁場が形成されました。

薩南海域では、1月に馬毛、湯瀬・梅吉、島間で中銘柄（2歳魚以上：2024年以前）、2月に湯瀬・梅吉で中銘柄、野間池で小銘柄（1歳魚以上：2025年以前）、津倉瀬で大銘柄（4歳魚以上：2022年以前）、3月に角瀬・立目沖で中小銘柄（1歳魚以上：2025年以前）、湯瀬・梅吉で中銘柄主体の漁場が形成されました。

4港計のまき網では3,070トンの水揚げで、前年比132%、平年比96%でした。

### 3. 県内の2026年4～6月期の見とおし

漁獲主体：ゴマサバ中銘柄以上（2歳魚以上：2024年生まれ以前）

来遊量：前年、平年並

（根拠）

漁獲主体は近年の漁獲動向から予測しました。また、来遊量は、直近の漁模様と正の関係があることから、前年、平年並と考えられます。

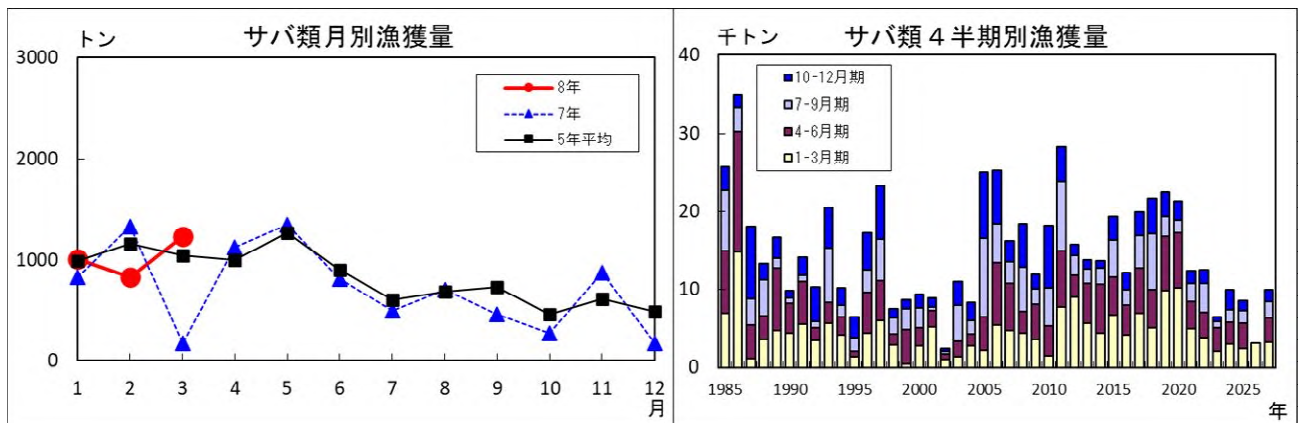


図 サバ類まき網漁獲量変化（4港計）

# [マイワシ]

## 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のマイワシの漁獲量は、1950年代から1960年代にかけての不漁期の後、1973年頃から増加の傾向が見られ、1988年には449万トンまで増加しました。

1989年以降、全国的に漁獲量は減少を続け、2002～10年までは、10万トンを下回る低い水準で推移していましたが、2011年以降は10万トン以上に増加しました。

さらに、2013年以降は20万トンを超える漁獲が続き、2024年は66万6千トンとなりました。

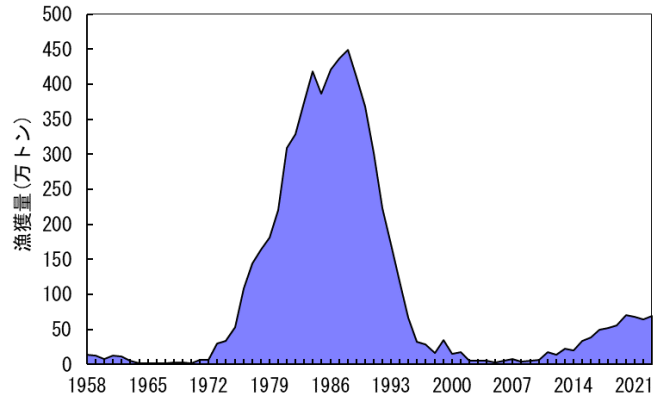


図 全国のマイワシ漁獲量の推移

年

## 2. 県内の 2026 年 1～3 月期の漁況の経過

### 【4 港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域のまき網では主に甑島周辺海域、天草西沖、串木野沖に漁場が形成されました。薩南海域のまき網では主に枕崎、野間池、開聞沖に漁場が形成されました。

4 港計のまき網では、中～大羽（1 歳以上：2025 年以前）主体に 3,702 トンの水揚げで、前年比 65%、平年比 148%でした。

北薩海域の棒受網では、中～大羽（1 歳以上：2025 年以前）主体に 207 トンの水揚げで、前年比 201%、平年比 656%でした。

## 3. 県内の 2026 年 4～6 月期の見とおし

漁獲主体：4 月は中～大羽（1 歳以上：2025 年以前）主体で、5 月以降は小～中羽（0 歳：2026 年）主体

来遊量：前年並で、平年を上回るでしょう。

（根 拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年並で、平年を上回ると考えられません。

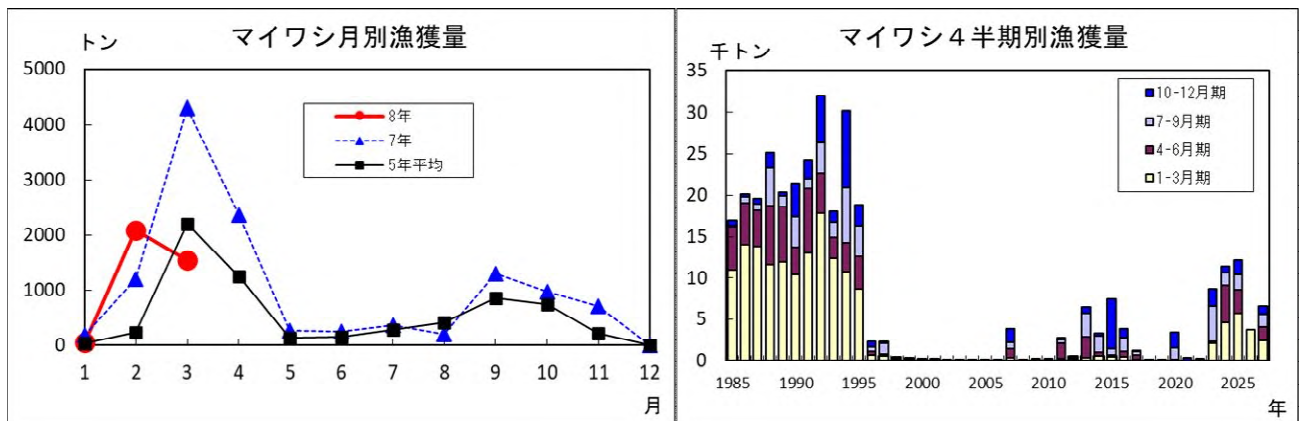


図 マイワシまき網漁獲量変化(4 港計)

## [ウルメイワシ]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のウルメイワシの漁獲量は、1950年代以降、増減を繰り返しながらも増加傾向を示し、1994年に6万8千トンとピークを迎えた後、減少傾向に転じ2000年には2万4千トンまで減少しました。

2003年以降は再度増加傾向に転じ、2016年は9万8千トンで1958年以降では最高の漁獲量となりました。2024年の漁獲量は6万9千トンとなりました。

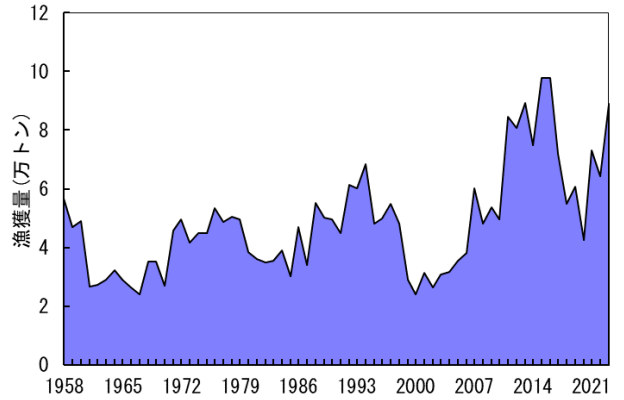


図 全国のウルメイワシ漁獲量の推移

年

### 2. 県内の2026年1～3月期の漁況の経過

#### 【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

北薩海域のまき網では主に甌島周辺海域、牛深沖に漁場が形成されました。薩南海域のまき網では主に枕崎沖、開聞沖、立目崎沖に漁場が形成されました。

4港計のまき網では、中～大羽（1歳以上：2025年以前）主体に83トンの水揚げで、前年比75%、平年比15%でした。

北薩海域の棒受網では、中～大羽（1歳以上：2025年以前）主体に18トンの水揚げで、前年比374%、平年比265%でした。

### 3. 県内の2026年4～6月期の見とおし

漁獲主体：4月は中～大羽（1歳以上：2025年以前）主体で、5月以降は小～中羽（0歳：2026年）主体

来遊量：前年を下回り、平年並でしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年を下回り、平年並と考えられます。

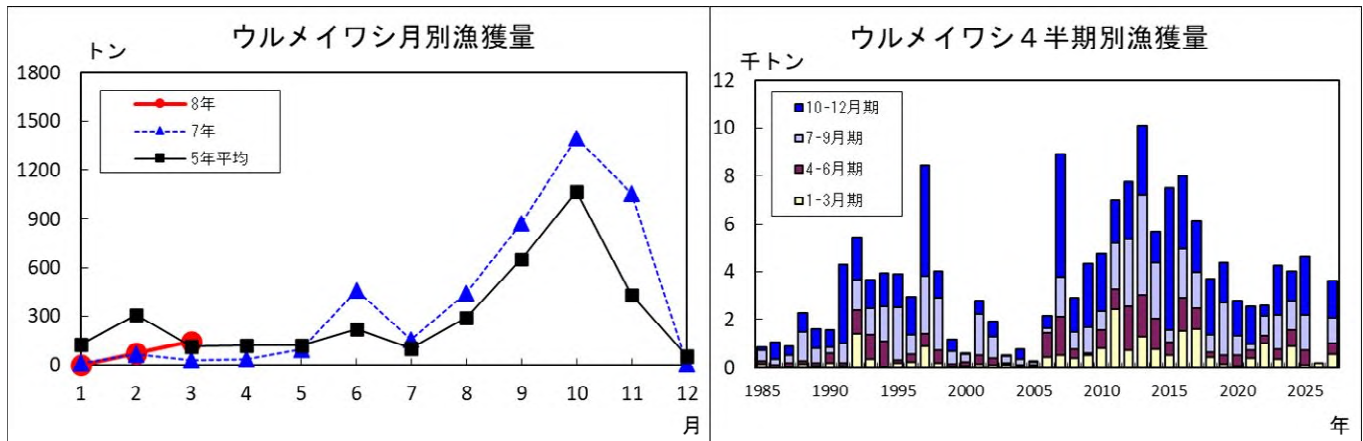


図 ウルメイワシまき網漁獲量変化（4港計）

## [カタクチイワシ]

### 1. 全国の漁獲量の動向（農林統計）

全国のカタクチイワシの漁獲量は、1973年まで30万トン台で変動していましたが、1974年以降減少傾向となり1979年には13万トンとなりました。

その後は大きく増減を繰り返しながら増加傾向にあり、2003年は過去最高の53万5千トンとなりましたが、その後減少傾向に転じ、2024年は10万2千トンとなりました。

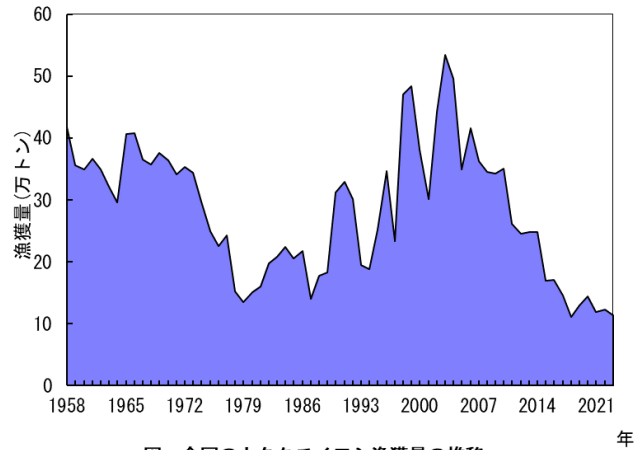


図 全国のカタクチイワシ漁獲量の推移

### 2. 県内の2026年1～3月期の漁況の経過

【4港計（阿久根、枕崎、山川、内之浦）】

まき網による、カタクチイワシの漁獲はありませんでした。

北薩海域の棒受網では、9トンの水揚げで、前年比545%、平年比22%でした。

### 3. 県内の2026年4～6月期の見とおし

漁獲主体：小～中羽（0～1歳魚：2025～2026年生まれ）

来遊量：前年並で、平年を下回るでしょう。

（根拠）

漁獲の主体と来遊量は、現在の漁況経過や近年の漁獲パターンから予測しました。

前期の漁況を基に予測すると、今期の来遊量は前年並、平年を下回ると考えられます。

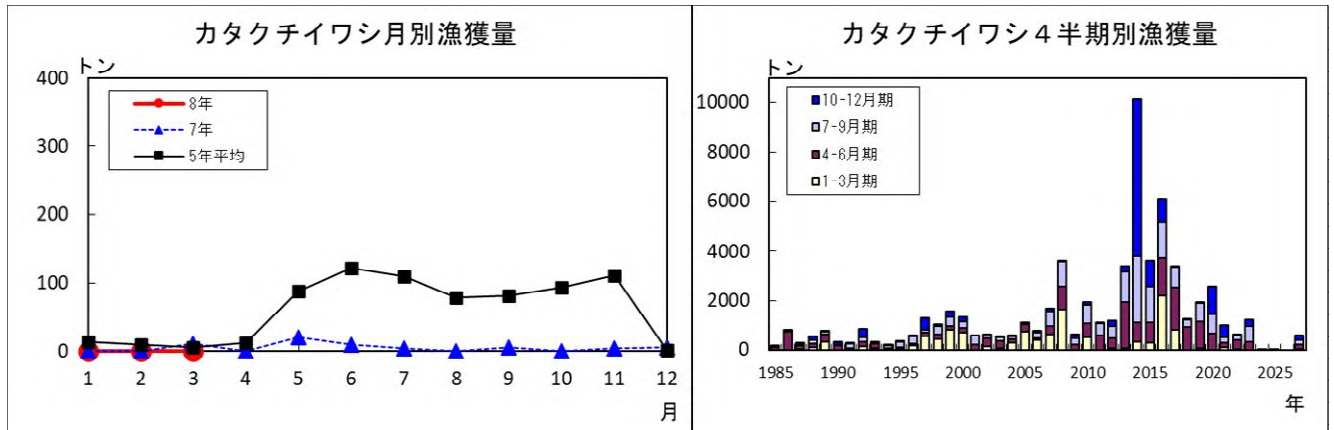


図 カタクチイワシまき網漁獲量変化(4港計)

[イワシ類参考資料]

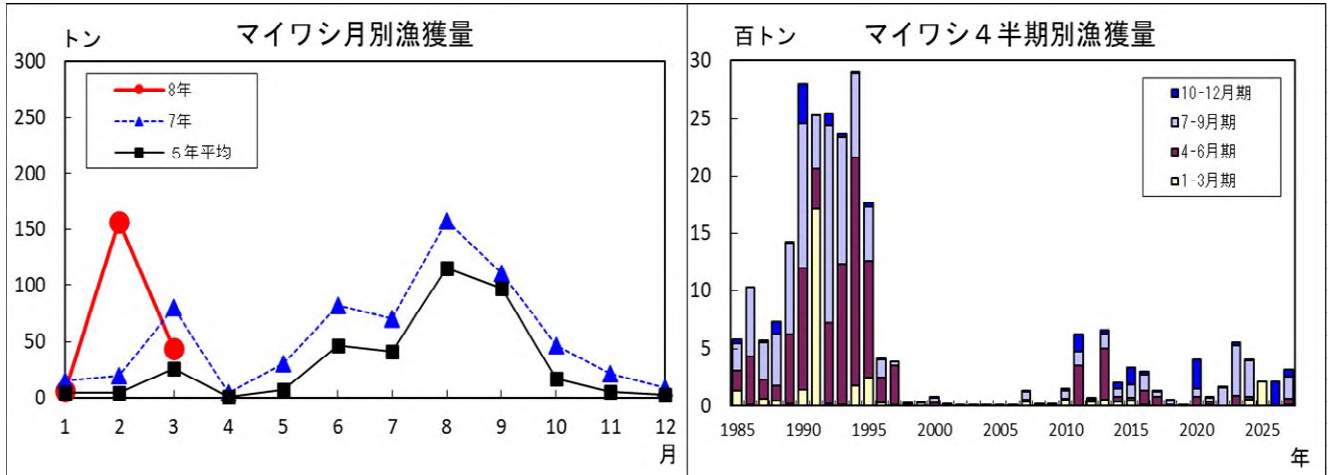


図 マイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

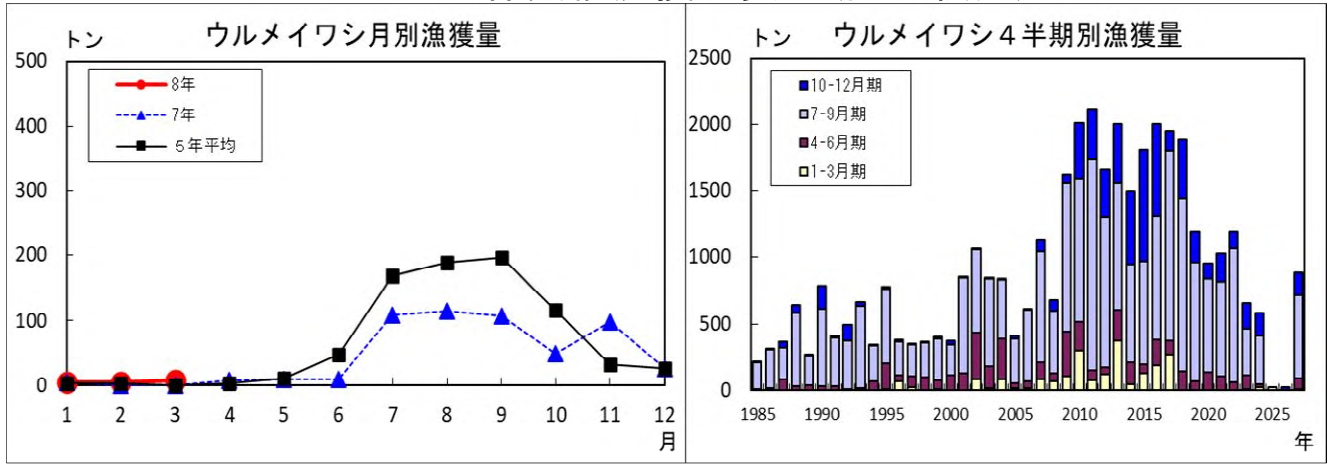


図 ウルメイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

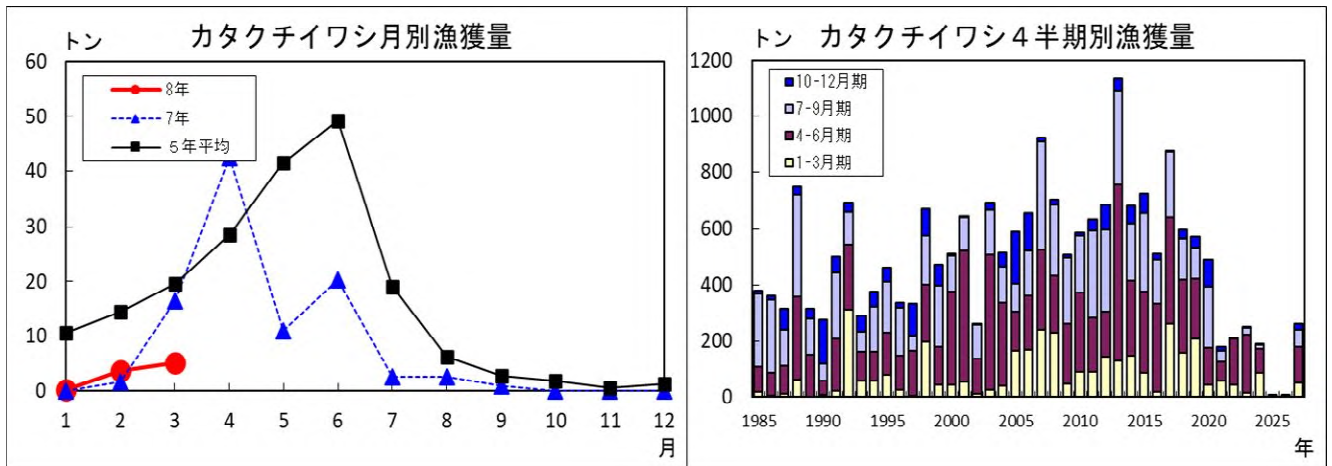


図 カタクチイワシ棒受網漁獲量変化(阿久根港)

# [シラス]

## 1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量は、西薩海域では、1999年の5,450トンピークに減少傾向を示し、2002、2003年と1,000トンを下回り低調に推移しました。その後、2004年は3,507トンと比較的好調に推移しましたが、2005年以降減少傾向を示し、2024年は91トンと過去最低の漁獲量となりました。

志布志湾海域では、2007年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000トン前後で増減を繰り返しながら推移し、2022年から漁獲量が減少し、2024年は302トンの漁獲量となりました。

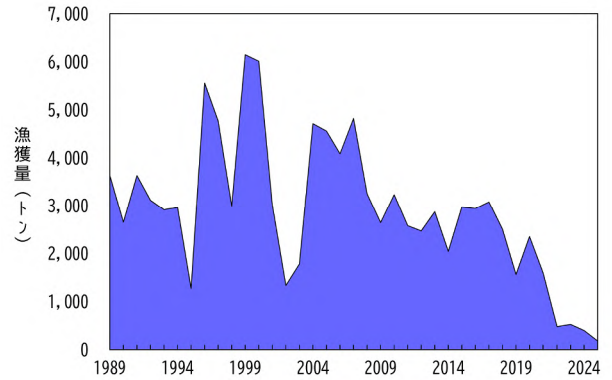


図 鹿児島県のシラス漁獲量

## 2. 2026年1~2月の漁況の経過

西薩海域ではまとまった水揚げがありませんでした。

志布志湾海域では、ウルメシラス、マイワシシラス主体に94トンの水揚げで、前年並で、平年を下回りました（前年：100%、平年：60%）。

## 3. 2026年4~6月期の見通し

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。

西薩海域は、直近の漁模様から平年(73トン)を下回ると考えられます。（前年同期漁獲無し）

志布志湾海域は、直近の漁模様から前年(35トン)並みで、平年(132トン)を下回ると考えられます。

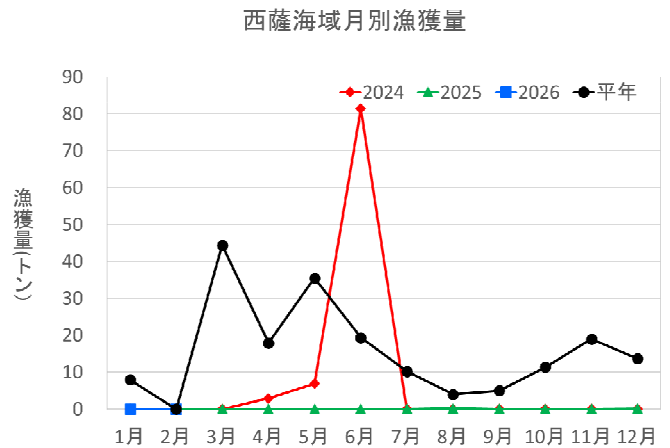
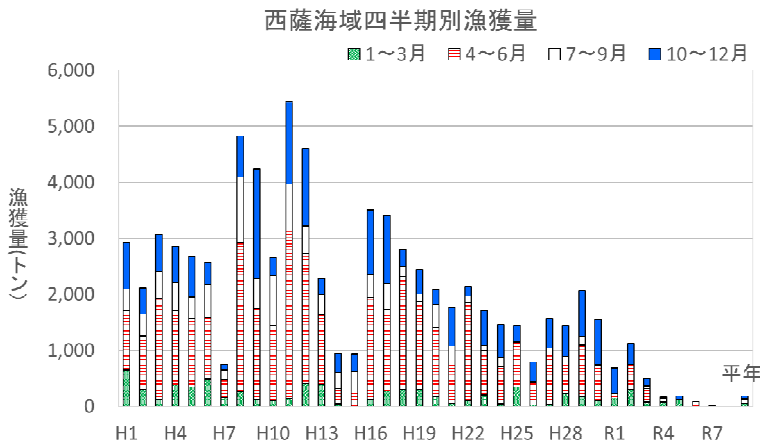


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)

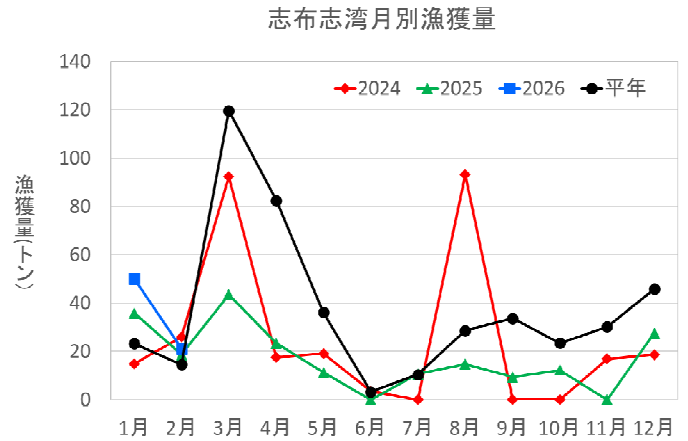
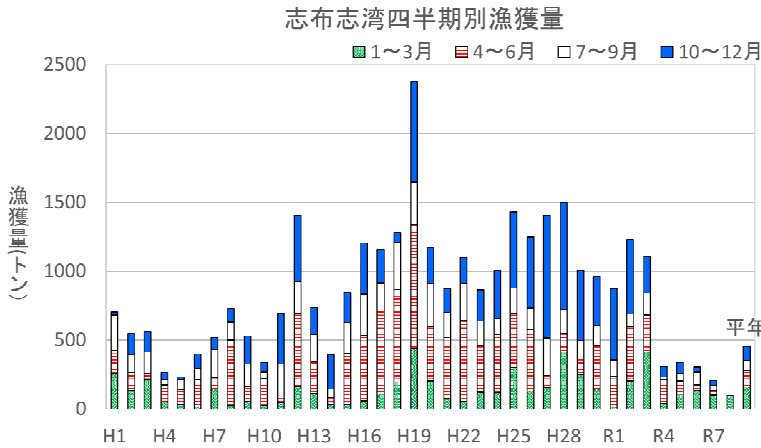


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2漁協計)  
 ※平年値は過去5年の平均値(AV)、2026年2月28日までの水揚量を使用

### [ムロアジ類]

〈クサヤモロ、ムロアジ、モロ(水産技術開発センター調べ:4港計)〉

#### 1. 経年経過

ムロアジ類の漁獲量は、1990年の21,700トン进行ピークに急減し、1994年以降は1,500トンから5,000トンの間での推移しており、2025年は3,249トンとなりました。

#### 2. 県内の2026年1~3月期の漁況の経過

1月に島間沖、種子島南、馬毛島、2月に島間沖、西新曾根にて漁場が形成されました。銘柄別では、クサヤモロ中小銘柄が主に漁獲されました。

4港計のまき網では686トンの水揚げで、前年比123%、平年比132%でした。

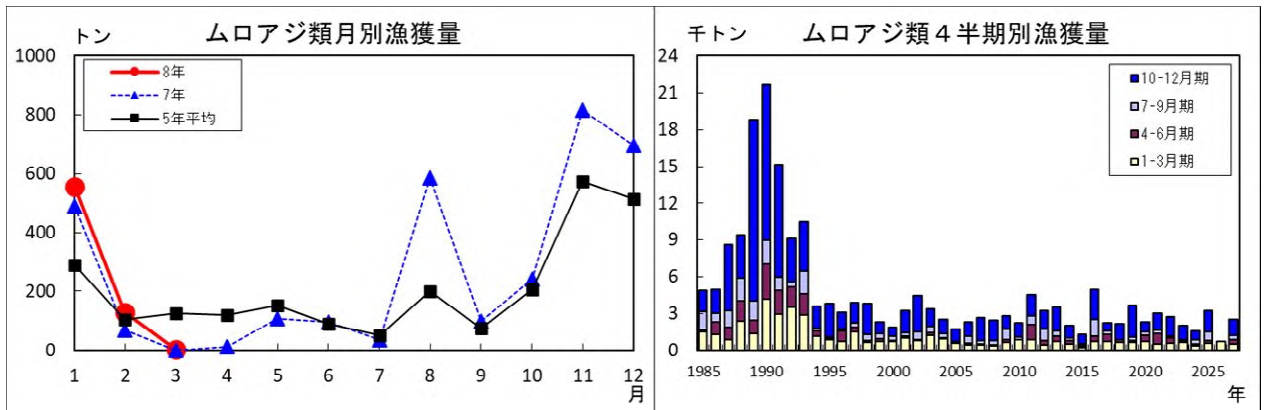


図 ムロアジ類まき網漁獲量変化(4港計)

〈オアカムロ(水産技術開発センター調べ:4港計)〉

#### 1. 経年経過

オアカムロの漁獲量は、1989年の5,300トン进行ピークに一旦減少し、1995年に4,400トンと再度ピークを迎えた後は減少傾向となり、2007年には700トンとなりました。2008年に2,300トンまで増加した後は700~2,400トンの間で推移し、2025年は191トンでした。

2. 県内の 2026 年 1～3 月期の漁況の経過

1 月に屋久島、屋久島南で漁場が形成されました。銘柄別では小銘柄が主に漁獲されました。

4 港計のまき網で 36 トンの水揚げで、前年比 104%、平年比 61%でした。

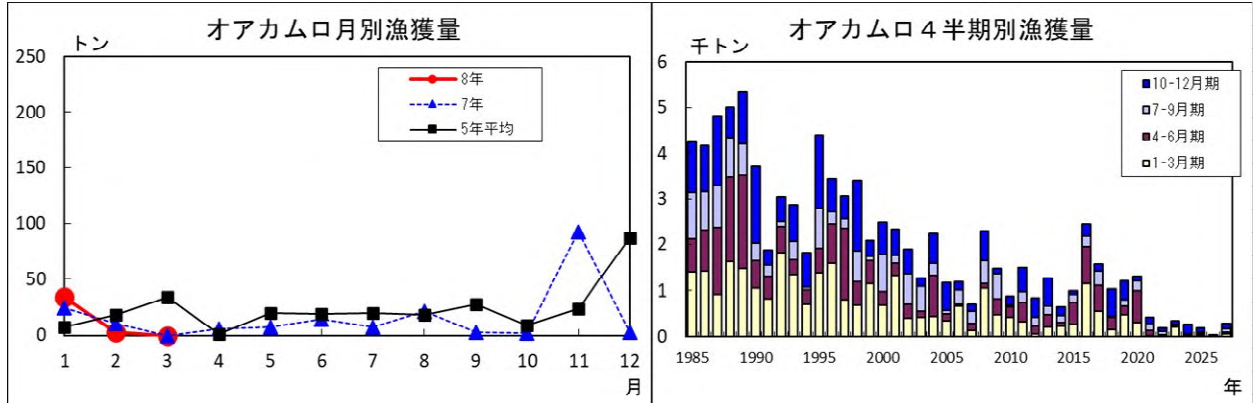


図 オアカムロまき網漁獲量変化(4 港計)

[マルアジ]

1. 経年経過

マルアジの漁獲量は、1987 年から 1989 年に 1,500 トンを超えるピークがあり、その後低調に推移し、2000 年から 2003 年に再度ピークを迎え 2003 年には 3,150 トンと最高を記録しましたが、2004 年以降は低調に推移し、2025 年は 557 トンとなりました。

2. 県内の 2026 年 1～3 月期の漁況の経過

2 月に野間池沖で漁場が形成されました。銘柄別では、中銘柄が主に漁獲されました。4 港計のまき網では 164 トンの水揚げで、前年比 34%、平年比 88%でした。

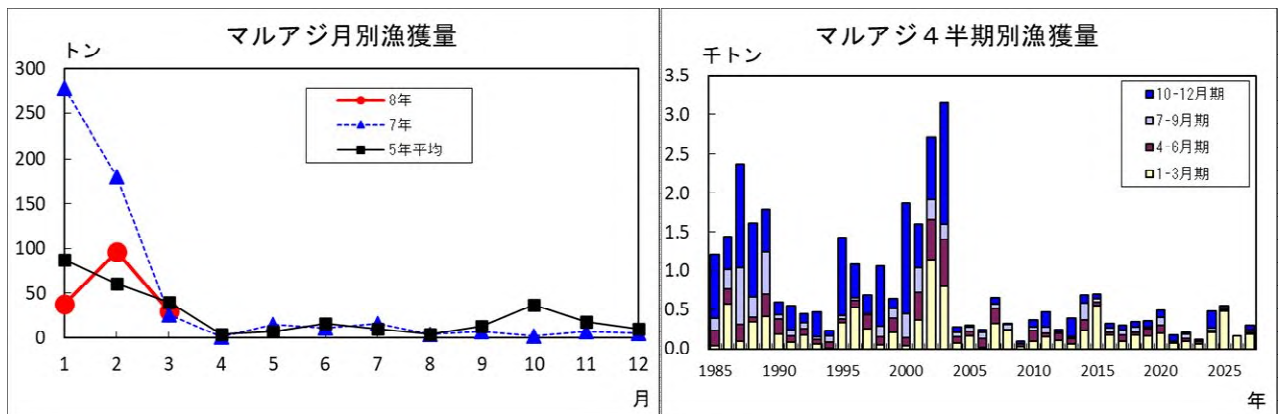


図 マルアジ (アオアジ) まき網漁獲量変化(4 港計)